

## 4 実習

### 1. 実習の目的

実習は、看護実践を実体験する中で、理論と実践の統合を図りながら、看護実践における判断能力、問題解決能力を養うとともに、自己の成長と探求心を育むことを目的とする。

### 2. 実習の展開

実習は、様々な場所で、ライフステージや健康レベルの異なる対象と向き合うことにより、主体的に学び続ける態度を養い、看護実践能力を高めることができるように、1年次から4年次の各年次に分けて行う。

実習時期	実習の内容	実習科目	単位数	
1年次後期	入院患者とのコミュニケーションや看護師との関わりを通して、療養生活や看護活動の実際を知り、看護師の役割について考える。また、コミュニケーションにおける自己課題を明確にする。	基礎看護学実習Ⅰ	1	
2年次後期	健康課題を持つ対象者の個別性に合わせた日常生活援助を計画・実施する能力を養うため、日常生活援助に関わりながら患者理解を深め、看護過程を展開する。	基礎看護学実習Ⅱ	2	
3年次後期	これまでの実習を踏まえ、母性・小児・成人・老年・精神・在宅及び公衆衛生看護学の7領域において、看護の継続の視点から対象及び場の違いに応じた看護を実践的に学び、看護実践能力を養う。さらに、実習の評価を行いながら自己を振り返り、看護観、倫理観を高める。	母性看護学実習 小児看護学実習 成人看護学実習Ⅰ 成人看護学実習Ⅱ 老年看護学実習 精神看護学実習 在宅看護学実習 公衆衛生看護学実習	2 2 2 2 2 2 2 4	
4年次前期	自らが、関心を持った分野・領域で実習を行い、理論と実践の統合を図り、看護実践の総合的な能力を高める。	看護総合実習	3	
選択 (自由科目)	4年次前期	周産期にある母児および家族への助産実践を通じて、助産師の役割について考察を深め、方法論を発展させる能力を養う。	助産学実習	10
	3年次後期	国際保健で学んだ国際看護の基礎を踏まえて外国の保健医療と看護の実際について学び、人々の生活や文化に触れ、国際的な視野を持つ看護者としての基礎となる能力を養う。	国際看護実習Ⅰ	2
	4年次前期※		国際看護実習Ⅱ	2

※運用上4年次後期に開講する。

### 3. 実習場所

実習は、三重県内の医療施設、訪問看護ステーション、保健所および市町保健センター等、産業あるいは学校等において行う。